

テクノピアとエコトピア

環境・エネルギーへ配慮した未来像を考えた場合、その典型的な方向性として、以下の3つが考えられる。

<p>テクノピア：地球にやさしい都市をあらゆる技術の活用と適正な環境の管理によって達成したもの。</p> <p>エコトピア：現在の生活様式と都市というものの概念を相当に変え、自然の営みと共生した街のイメージ</p> <p>調和型社会：テクノピアとエコトピアの中間解。現在の都市住民の快適さと地球へのやさしさ（将来世代の存続）を同時に満たす最適な都市形態。</p>

< 出典：「エコトピア - 環境調和型社会の提案 - 」（内藤正明、1992） >

表．各未来像の内容

	新都市が目指す未来像の方向性		
	テクノピア	調和型社会	エコトピア
都市の密度	高密度高層	高密度と低密度のメリハリ (ex. クラスター型コンパクトシティ)	低密度低層
機能配置	機能分離、機能集中	ベストミックス	機能混在、機能分散
移動交通の性格	住空間と交通インフラの分離、個別輸送、長距離多量移動	ベストミックスの交通体系 (ex. 新交通システム + P&R + 歩行者・自動車優先道路)	住空間と交通インフラの共存、共同輸送、最短最小移動
自然への態度	客体として支配	適性管理 (ex. 里山管理)	一体であり共生
技術システムと意識	知らずとも環境への配慮がなされる技術システム	住み手の環境配慮への意識向上を促す技術システム	知恵と工夫で環境に配慮する技術システム
技術システムの性格	未来志向 (ハイテク)	システムの性格や環境意識の差異に対応した多様な技術システム	温故知新 (ローテク)
技術への態度	技術中心主義 (技術楽観主義、調和型開発主義)	適材適所の技術システム	自然調和主義 (地域社会主義、ガイア主義)
経済の性格	量の経済	テクノピアとエコトピアの両者の良い面を取りいれながら適正なバランスを取る	質の経済
モデル都市としての役割	トップダウン型モデル (世界のリーダー)		ボトムアップ型モデル (ローカル)
時間への態度	効率・スピード重視		自然のリズム重視、スローライフ
他地域との関連性	機能分担		自立
(参考) 宗教観	西洋的一神教		東洋的多神教

(「エコトピア - 環境調和型社会の提案 - 」（内藤正明、1992）を基に作成)

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成